

# 広報 ふくしんかい

---



磐梯吾妻レークラインからの眺め 撮影者：斎藤俊介



2014.1 第**86**号

---

発行：一般社団法人福島県鍼灸師会 福島県郡山市喜久田町字入ノ内 6-37

# 目 次

|   |    |
|---|----|
| ごあいさつ   | 1  |
| 一般社団法人福島県鍼灸師会 会長 中沢 良平  |    |
| 顧問就任のごあいさつ -今、目指すもの-  | 2  |
| 一般社団法人福島県鍼灸師会 顧問<br>公立大学法人 福島県立医科大学会津医療センター 付属病院副院長(業務)<br>漢方医学講座教授 三瀨 忠道 |    |
| 就任ご挨拶   | 3  |
| 一般社団法人福島県鍼灸師会 顧問<br>福島県議会議員 佐藤 憲保   |    |
| 鍼灸師会として取り組む地域ケアとしてのコミュニティ・アウトリーチ活動  | 4  |
| 一般社団法人 福島県鍼灸師会 地域医療推進委員会  |    |
| 夏季学術講習会 兼 県民公開講座開催記   | 7  |
| 一般社団法人 福島県鍼灸師会 学術部長 三瓶 真一   |    |
| 来年こそ、スポーツボランティア治療で本当の普及を  | 8  |
| 一般社団法人 福島県鍼灸師会 スポーツ鍼灸委員長 今泉 洋平  |    |
| はりきゅう治療を健康保険で受けてみませんか   | 10 |
| 一般社団法人福島県鍼灸師会 保険部長 橋本 修一  |    |
| ファミリーフェスタ考察   | 12 |
| 一般社団法人福島県鍼灸師会 副組織部長 白井 和弥   |    |
| 全国大会・学術大会参加記  | 18 |
| 箱岩 義郎   |    |

# ごあいさつ

一般社団法人 福島県鍼灸師会

会長（代表理事） 中沢 良平

---

新年明けましておめでとうございます。

県民のみな様におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

本会は、平成25年4月1日より、一般社団法人に移行しました。本会の目的は、「鍼灸学術の進歩発展とその医学的研究をなし、はり師及びきゅう師の資質の向上と、福利厚生を図り、もって公衆の厚生福祉に寄与すること」ですが、この目的は旧社団法人時代と同じです。組織は新しい法制度のもと変わりましたが、かかげる理念は先人の方たちの意思を継承することにしました。高尚な理念を受け継ぐことは大切と考えたからです。

しかし、活動の内容は従来のものより充実しています。

福島県立医科大学付属会津医療センターや公立岩瀬病院との医療連携、会津鶴ヶ城ハーフマラソン大会、会津健康ツボセミナーでの原発事故避難者への施術等奉仕活動、同じくいわき市における原発事故避難者を対象とした地域支援事業による介護予防活動、須賀川地域包括ケアシステムを考える会への参加、日本在宅医学会への参加など、新しい分野にも多く関わるようになりました。

多岐にわたり充実した活動は、本会会員の質の高さがあってのことですが、会員が本会の目的を理解し、県民のみな様への健康・福祉増進への思いがあるからこそ、実行できるものです。そうした会員の集う会の代表であることに誇りに思いますし、これからも県民のみな様のお役に立ちたいという思いを新たにしています。

また、平成27年には、公益社団法人全日本鍼灸学会の全国学術大会が郡山市で開催されることになりました。全国から約1千名の参加者を集める大きな大会ですが、この大会の役員に本会の理事が多く関わっています。福島県から全国に向け、鍼灸のすばらしさと地域鍼灸医療にける思いを発信したいと願い精励しています。

福島県は、未だ復興の道半ばです。未来に向け、みな様が明るく健やかに過ごせるよう、そうした活動に邁進したいと思っていますので、さらなるご理解をお願い申し上げます。

最後となりますが、みな様のご健康とご多幸をお祈りし、ごあいさつといたします。

## 顧問就任のご挨拶 -今、目指すもの-

一般社団法人 福島県鍼灸師会 顧問  
公立大学法人 福島県立医科大学会津医療センター 附属病院副院長(業務)

漢方医学講座教授 <sup>みつま</sup>三渚 忠道

去る平成25年8月11日、歴史ある一般社団法人福島県鍼灸師会の顧問を委嘱されました。私にとりましては、活発で内容の濃い活動を続けられているこの会の顧問として、いささか役不足かとは思いますが、光栄と感じて謹んでその任をお受けいたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

日本における漢方医学は、古代中国発祥の医学をその原点として、伝来してから独自の発展を遂げた我国の伝統医学です。そして私が日ごろ携わっております湯液(漢方薬)と共に、鍼灸がその両輪であることは申すまでもありません。いずれも江戸時代までは医療の中心を担ってきた湯液と鍼灸は、明治時代からの政策により衰退をしましたが、異なる歴史をたどって今日を迎えました。湯液は医学教育や健康保険制度からは疎外され、一時期は滅亡の危機に瀕しました。しかし昭和 51 年から漢方製剤が大量に薬価収載されたことをきっかけに、医療現場に広く普及しました。2002 年には医学教育モデル・コア・カリキュラムの薬理学の項に『和漢薬を概説できる』との 9 文字が記載され、全国 80 医学部で講義が開始されています。それに対して鍼灸は、はり師・きゅう師の資格が残され臨床活動が継続されてきましたが、医師免許とは別の免許です。わが国の医療の中心をなす健康保険診療の場からも遠ざかり、その真価を医療の第一線場で発揮する道はほぼ失われてきました。病院内での鍼灸診療は、混合診療の禁止と相俟ってほぼ不可能となっています。

会津医療センターは福島県立会津総合病院と県立喜多方病院の統合病院として計画され、後に福島県立医科大学の組織となって、平成 25 年 5 月 12 日に開設されました。その目的は、広大な面積を抱え、医療過疎と高齢化の進む福島県(特に会津地域)における医療の確保です。具体的には、総合診療やプライマリー・ケアに有効な東洋医学(すなわち漢方医学)の導入が大きな柱の一つとされました。漢方医学講座の開設にあたって、教室創設の命が不肖、三渚に下った折に強く求められたこととしては、湯液のみならず鍼灸部門を設立することでした。

鍼灸診療を総合病院の中で実施するためには、制度上の問題や保険診療下での採算の問題の他に、鍼灸師には現代(西洋)医学の習熟も必要とされます。大学の組織としては、臨床の他に研究と教育の三つが活動の柱となります。その中でも教育に関しては、医学生や卒後の医師教育とともに、鍼灸の卒後教育を行う仕組みの構築も必須だと考えています。

平成 27 年に開催される第 64 回全日本鍼灸学会学術大会ふくしま大会は私が会頭を仰せつかり、福島県鍼灸師会の絶大なご協力により開催準備中です。この大会テーマ「今、鍼灸の復興を - 拓け未来、育め希望 -」に恥じない活動を、皆様とともに展開したいと考えます。今後は顧問というよりは同志として、温かくお付き合いいただければ幸いです。

# 就任ご挨拶

一般社団法人 福島県鍼灸師会 顧問

福島県議会議員 佐藤 憲保

---

皆さま、新年おめでとうございます

さて、東日本大震災とその後の東京電力福島第一原子力発電所事故の発生から間もなく3年を迎えます。この震災と原発事故により、長期間にわたって大きな不安と悲しみ、苦しみを抱えながら不自由な生活を余儀なくされている皆様には、心よりお見舞い申し上げるとともに、長年県政に取り組んできた者としてこのような事態を招いてしまったことに心よりお詫びを申し上げます。

未だ福島県内外に及ぼす影響が解消されていない状況のもと、国を挙げての諸施策を講じておりますが、除染対策・汚染水処理など未だ終息の見通しも不透明な状況にあります。このような中で、震災で甚大な被害を被った本県のこれから進むべき将来の姿を示し、震災以前の福島県を取り戻すためのあらゆる施策に着手し、確実に前進しなければなりません。

私は、郷土の一日も早い復興を最優先とし、明日への希望を持てる「ふるさとふくしま」づくり、更には、原子力発電所事故による放射性物質の多大な諸問題に対し日夜、その対策に奮闘しているところです。

将来に「夢を持てるふくしま」のため、今なにを優先すべきか、また、次世代にどのように引き継ぐべきか、郷土人の不屈の精神を信じ、「明るい未来」を築きあげたいと思っております。

つきましては皆さまの声に真摯に耳を傾け、県民生活を最優先に取り組んでまいり所存であります。

末尾になりましたが本会の益々のご隆盛、会員皆様のご健勝・ご多幸をご祈念申し上げます、年頭の就任ご挨拶といたします。

# 鍼灸師会として取り組む地域ケアとしての コミュニティ・アウトリーチ活動

福島第一原子力発電所事故避難者の大熊町の方を対象として

一般社団法人 福島県鍼灸師会 地域医療推進委員会

鍼灸医療は、地域・家庭医療でもあります。地域の方たちの健康保持・増進にかかわることも、医療者としての鍼灸師の大事な使命です。病気になったから、具合が悪くなったからということで鍼灸院を訪れるのではなく、元気で健康なときから関わり合いを持つことも、地域ケアを担う鍼灸師として大切な役割です。このような地域住民の方たちの健康保持・増進を目的として、その地域に出向く活動のことをプライマリ・ケアではコミュニティ・アウトリーチ (Community Outreach) といいます。

福島県鍼灸師会では、福島第一原子力発電所事故による避難者に対し、鍼灸ケアをはじめとした多くの事業で支援をしています。

このたび、福島第一原子力発電所の立地町である大熊町の方を対象に、コミュニティ・アウトリーチという視点から会津若松市といわき市に避難されている方を対象に、鍼灸と介護予防運動指導の地域ケア活動をしましたので、ご紹介いたします。

## ■ 会津若松市での鍼灸ケア活動

7月28日、会津若松市文化センターにおいて、「やくだつ鍼灸・あなたのツボを教えます！」と題し、健康ツボセミナーを開催しました。主な受講対象者は、福島第一原子力発電所事故により会津若松市に避難されている大熊町の方たちと会津若松市の方たちです。

大熊町は浜通りにあり、慣れない雪深い会津に、今もなお避難生活を強いられています。小さな仮設住宅では耐久性に問題があり、不自由で慣れない生活を余儀なくされ続けています。



介護予防の筋力指導のようす

この健康ツボセミナーでは、日本鍼灸師会から後援をいただき、東京都の鍼灸師の深山すみ子先生と共におこないました。このように日本鍼灸師会では、地方鍼灸師会の公益性のある事業について、いろいろな形で支援をしています。

ツボの効果やお灸などの使い方の説明の後、介護予防運動指導員の資格を持った本会会員

等が、足腰の弱った避難者に転倒予防の筋トレを指導しました。

その後、会場内に設置したベッドを使い、会津地区の会員が中心となり、避難者各個人の症状に合ったツボをひとり一人に紹介します。症状としては、腰痛や膝痛、肩こりだけではなく、長引く避難生活から来るとみられる胃腸障害や不眠症など、自律神経の不調を訴える方が多い印象を受けました。

体験後は、体が温かくなった、軽くなったと好評を博し、避難生活におけるセルフケアの大切さを感じていただけたようです。



鍼灸師による耳ツボジュエリーのサービス



参加者のみなさんが自分の足にお灸

## ■ いわき市での介護予防運動指導活動

現在いわき市には約 23,000 人の避難者があり、そのうち大熊町だけで市内7カ所の仮設住宅に約 3,000 人の方が避難生活をしています。大熊町では放射線量が早期に軽減する見込みがないので避難生活の長期化が予測されています。

この長期の避難生活により高齢者が要介護状態に陥らないよう、また生きがいを持ち自立した生活を営むことができるよう、個々の状態に合わせた支援をおこなうことを目的として、大熊町では「いきいき教室」を実施しています。

福島県鍼灸師会のいわき はり・きゅう介護予防チームは、公益事業の一環として、すでに平成24年度のいわき市の地域支援事業（「転倒・骨折予防教室」）を受託した実績があります。平成25年度はさらに規模を拡大させて2カ所の教室を受託しました。この大熊町の「いきいき教室」も高齢避難者の方たちの要介護を予防するといった観点から高い公益性を認め、平成25年度の全11回の教室を受託することにしました。



大熊町「いきいき教室」のようす

「いきいき教室」は今年の5月から来年3月まで、月1回の合計11回開催されることになってお

り、すでに7回の教室が開かれました。

高齢者のみならず、お子さんも含めたご家族で参加されたりして、他の地域でおこなわれている地域支援事業とは一味違った介護予防教室になっています。

参加された大熊町の方々に感想を聞いてみました。

<<皆さんの感想>>

- ・Aさん:体を動かすのは気持ちが良い。みんなで集まってやるのは楽しい。もっと回数があれば良い。
- ・Bさん:セラバンドの運動は、やったことが無かった。体に効くね。
- ・Cさん:長期化する避難生活で運動教室は、気分転換になって良いね。
- ・Dさん:足が悪いので、激しい運動はできないからこの程度の運動ならちょうど良い。
- ・Eさん:家の中に閉じこもっていたが、友達に誘われて参加した。久しぶりに体を動かし気持ち良かった。回数がもう少しあると良い。

好評を博した福島県鍼灸師会のいわき はり・きゅう介護予防チームでは、一人でも多くの方に、これからも元気で避難生活を送ってもらえるよう貢献したいと思っています。そのためには、継続して地域ケアとして関わっていきたいと思っています。

#### ■地域ケアを担う鍼灸師として

鍼灸師が家庭医的な存在となるには、家庭医療の知識を学ぶことも必要と考えます。家庭医療の教本には介護予防の知識も記載され、CGA(老年医学的総合機能評価表)の習得も勧められています。そうした視点から、鍼灸師が介護予防の知識と技術を得ることは、家庭医療を実践するのに必須のこととなります。

地域住民の方たちの健康保持・増進としてその地域に出向くコミュニティ・アウトリーチは、一度に多くの方たちと関わり、普及効果が高い利点があります。

鍼灸と介護予防運動指導を通じ、参加された避難者の方たちと共に苦痛を共有しながら立ち向かう機会を与えたことは、私たち鍼灸師会として非常に高い公益性と社会参加意識を感じました。

これからも福島県鍼灸師会では、地域や家庭医療を支える鍼灸師の集まりとして、避難者と共に復興に向けて歩み続けることを決意した事業でもありました。

(文:中沢良平 柏原修一)



ストレッチ体操

## 夏季学術講習会 兼 県民公開講座開催記

学術部長 三瓶 真一

新法人移行となった今年度の夏季学術講習会は、第一部を県民公開講座として開催いたしました。第一部の講師には、福島県立医科大学会津医療センター漢方医学講座准教授の鈴木雅雄先生にお願いしました。

鈴木先生は、前職の明治国際医療大学准教授で内科系疾患などとりわけ慢性閉塞性肺疾患（COPD）に対する灸治療の効果を発表し、米国医師会が発行している内科系医学専門誌である *Archives of Internal Medicine* に掲載されました。その内容は日本や米国国内だけではなくロイター通信を通じて世界の主要メディアに取り上げられました。

県民公開講座の演題は、「夏に負けない体作り、東洋医学の知恵と実践」と題して、身近な食物での夏負けを防ぐ知恵などの紹介をしていただきました。とくに、スイカに塩をかけて食べる習慣は、食味向上の理由以外に、糖分や電解質を上手に体に取り込み、脱水症や熱中症を防ぐ効果からも理に適っているそうです。鍼灸についてもツボに対しての鍼灸の作用で、消化器系の不調を未然に防いだりするメカニズムなどを、一般県民向けにわかりやすくお話しいただきました。

縁あって、日本を代表する鍼灸の若き研究者である鈴木先生と、日本漢方の重鎮である三瀨忠道先生を会津医療センター漢方医学講座教授としてわが福島県にお越しいただいたことは、本会会員だけではなく県民のみな様にとって大きな利益のあることだと考えます。

今後も本会の学術活動は会津医療センター漢方医学講座にお力添えをいただき、質の高い研修を開催したいと思います。



鈴木雅雄先生

この日の県民公開講座以外の夏季学術講習会としては、竹村裕先生による「中医学をわかりやすく」の講義と、東北鍼灸学会でのリハーサル発表である「シンスプリントに対する鍼灸治療の一症例」が箱岩義郎先生の症例報告として発表されました。いずれもレベルの高い本会会員の講座として本会生涯研修（財団法人東洋療法研修試験財団生涯研修）として単位を設定しました。

## 来年こそ、スポーツボランティア治療で本当の普及を

スポーツ鍼灸委員長 今泉 洋平

福島県鍼灸師会では年に3回、スポーツイベントでのボランティア治療をおこなっています。2月のいわきサンシャインマラソン、4月の郡山シティーマラソン、10月の会津若松鶴ヶ城ハーフマラソン。一番最初は郡山のシティーマラソンから始まりました。第2回目から約二十年にわたって続けて参加しています。そして数年前から始まったいわきサンシャインマラソンでも活動するようになり、全身カッコ良くキメて美人度&カワイイ度が増量した女子ランナーに心ときめかせています(フルマラソンの大会は全然違います!!)。会津の鶴ヶ城ハーフマラソンは昨年から参加するようになりました。大会は25回を数える歴史があるので、我々が参加している3大会の中では最も古い大会です。会津の大会に参加するようになり、浜通り・中通り・会津地方の3地区でそれぞれバランス良く活動できるようになりました。東西に幅広い福島県では、全員揃っての活動が難しいので、各地区毎にある程度まとまって活動できるようになるのではないかと考えています。

さて、ある程度満足のいく活動ができるようになってきたところで、すごく難しい課題を言ってみたくと思います。



本会会長 八重たん サムライ

## はじめて鍼灸治療を受けた方が その後治療院に通うようにしたい！！

「ボランティア治療では、儲け願望はしまっておきなさい。」と眉をひそめてしまいましたか？ だけど鍼灸治療って、その時その時のからだの状態に合わせた治療を施して、可能な範囲で一番良いコンディションを引き出す治療法ですよね。そして、生涯に渡って良い体調を維

持するために利用するのが理想的ですよね。ということは、レース後にほぐして「きもちいい～」「ええ～、鍼灸って痛くないのねえ」という『思いで作り』を手伝っただけでは、その方の生涯の体調って良くならないですよね。それじゃあまり意味が無いって思うのです。

鍼灸の普及とは、その場で良い思い出を作ってあげることではなくて、その後も継続的に鍼灸を利用してもらうきっかけになることなのだと思います。しかし、今は全くそれができていない状態です。治療を受けた方が鍼灸の良さをその後の生活に取り入れたいと思うにはどうすれば良いのか？真剣に考えてみたいと思います。

ただし、ただの売り込みだと思われる方法をやってしまえば、治療を受けた方々にも嫌われてしまいますし、主催者の方々からもストップが掛かるかもしれませんので、注意したいです。鍼灸治療の本当の価値を理解してもらって、それを利用してもらえるよう、作戦を練って来年度の活動に挑みたいと思っています。



鶴ヶ城ハーフマラソン大会のボランティア治療



いわきサンシャインマラソン大会のボランティア治療に参加したメンバー記念撮影



郡山シティーマラソン大会でボランティア治療のあいまに、学生に実技指導をしている本会の学術部長

## はりきゅう治療を健康保険で受けてみませんか

---

はりきゅう(鍼灸)治療を受けてみたいのだけれど受けられないという理由は人それぞれですが、そのなかには治療費が高いから、健康保険が効かないからということがあがります。

病院に行けば健康保険で治療していただけることはどなたでも知っていますが、しかしはりきゅう治療に健康保険が適用されることはあまり知られてはいませんが、近年のインターネットの普及や鍼灸業界の努力により徐々に周知され健康保険を使い治療を受けられる方が増えました。そこで健康保険による治療を受けるまでの手順を知っていただくための説明をいたします。

### 1 治療を受けようとしている疾患で病院を受診していますか？

鍼灸治療を健康保険で受けるには、その疾患で医師の治療を受けていなければなりません、その医師の同意が必要となるからです。

### 2 症状が以下の疾患に当てはまりますか？

鍼灸の健康保険は全ての疾患に適応される訳ではありません、主に痛みを伴う疾患に適用されます。

- 五十肩            肩関節周囲が痛み腕が挙らない
- 頸腕症候群      頸から腕にかけての痛み、シビレ感
- 頸椎捻挫        ムチウチ症など
- 神経痛           座骨神経痛、肋間神経痛など
- 腰痛症           腰の痛み
- リウマチ        急性、慢性で関節が腫れて痛む
- その他           疼痛を伴う疾患

### 3 鍼灸院に相談します

1、2に該当したら先ずかかりたい鍼灸院に電話でもかまいませんので健康保険を取り扱っているか確認します、取り扱いの確認が取れましたら鍼灸院にお越してください。なお、鍼灸院に行く際には確認のため健康保険証をお持ちください。

鍼灸治療は自由診療が基本ですので健康保険を取り扱わない治療院もあります、もし治療院が見つからないときは、お問い合わせいただければ鍼灸院をご紹介します。

### 4 かかりつけの病院で同意を受けます

鍼灸院に用意してある同意書または診断書を医師に提出し記入していただければ保険治療を受けることができます。

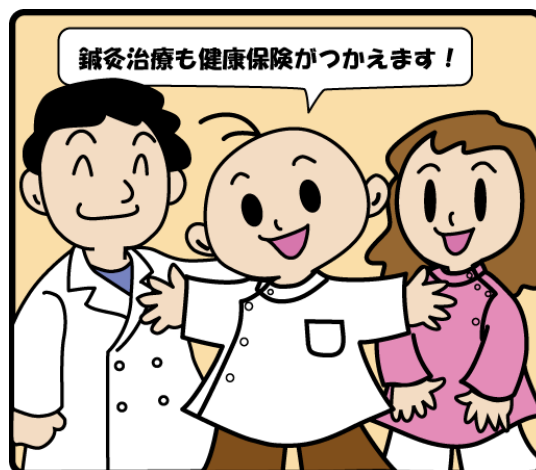
### 5 往療(往診)について

歩行困難や安静が必要などの理由から通院が困難な場合には、往療料も健康保険が適用されますが、治療院からの距離や適用の理由にもよりますのでご相談ください。

### 6 注意していただくこと

健康保険による鍼灸治療は同意書、診断書中の医師の認めた一疾患のみとなります。その鍼灸治療の期間中は同じ疾患で医師の治療は受けることはできません。

最後に、鍼灸は医療の一部として健康保険の取り扱いが認められております、安心して治療をお受けください。



#### 【お問合せ】

一般社団法人 福島県鍼灸師会 保険部長 橋本 修一

電話 0246-44-3246

※治療院のご紹介や受診の方法などお気軽にご相談ください。

# ファミリーフェスタ考察

副組織部長 白井 和弥

## 【事業報告】

今年度10月6日(日)、郡山カルチャーパーク・カルチャーセンターにおいて『ファミリーフェスタ2013』が開催されました。ファミリーフェスタとは、保健や福祉に関して幅広い年代の方へ理解を深めてもらうイベントであります。私たち福島県鍼灸師会は、10年以上継続してこのイベントに参加しております。例年同様であります。「健康相談」から「鍼灸の体験」を市民の皆様へ施してまいりました。私たち福島県鍼灸師会のブースには、およそ100名の市民の方がお出でになり、鍼灸治療とはどういったものか？それを体験してもらいました。

「鍼は痛い」とか「灸は熱い」というマイナスイメージを「鍼が刺さっても痛くない」や「お灸したツボが暖かくて気持ちいい」という意外性が、初めて鍼灸治療を受ける方にはびっくりされるようです。“痛くて熱そう”の先入観が取り除かれると、来場した市民の方、私たち鍼灸師お互いが嬉しくなる思いがあります。そして将来、鍼灸に興味をもってくれた方、鍼灸にプラスのイメージをもってくれた方が心身の不調をきたした時に「よし、そうだ！鍼灸治療を受けて治そう！」漠然ですがそういう流れができれば…と、毎年わたくし自身が思っていたことです。

市民の皆さんに選ばれる『鍼灸医療』、そして認められる『鍼灸師』という存在。そうなるようにと知恵を出し、努力を積み重ねていくことは今後とも重要課題であります。

今年度のファミリーフェスタですが、例年の体験治療・健康相談業務に加えて、二つの課題を設けて実践してみました。昨年度の広報誌にも掲げましたが、①来場者向けに「アンケート」をとる＋②「カルテ」を用意して鍼灸院へ紹介する、という二つの試みです。

## 【今回の試み】

市民へ鍼灸の素晴らしさを伝えられ、『選ばれる鍼灸医療』、『認められる鍼灸師』になるためにはどうしたらよいか？今回の試みである①アンケートの分析、②カルテ活用の成果を報告します。

### 1. アンケート集計

来場者100名に対して、以下の3つの質問事項を記入(または代筆)していただきました。そのうち68名の方から回答を得ました。およそ来場者3分の2が回答したことになります。

設問① 鍼灸治療を受けたことはありますか？

設問② 現在、病気・症状など、健康上の問題はありますか？

設問③ はり・きゅう治療、または鍼灸師にはどのようなイメージがありますか？

ファミリーフェスタにおいて、アンケート回収は初の試みなので、なるべくシンプルな質問に絞ってみました。鍼灸の認知度を知らするために、この機会を活用させていただいたことに感謝申し上げます。アンケートに回答された市民の皆さま、並びに聴取にご協力いただいた会員の先生方、ありがとうございました。以下、集計結果を報告いたします。

**設問① 鍼灸治療を受けたことはありますか？**

|     |      |
|-----|------|
| あり  | 22 人 |
| なし  | 44 人 |
| 無回答 | 2 人  |

\* 鍼灸治療経験ありの22名の中に、いつ・どんな症状でなどの回答をしてくださった方

鍼治療のみ1回(2人) / ファミリーフェスタで体験 / 肩こりで2~3日 / 腰痛で4~5回 / 肩こりで1回だけ / 10年前に / 1回だけ / お試しで / ぎっくり腰で3日間 / 交通事故による頸椎捻挫(ヘルニア)にて4回 / 往診で全身治療を1回

**【考察①】**

鍼灸治療経験の有無を確かめる質問です。数字だけ見れば、鍼灸治療経験者は3分の1を占めています。しかしコメントを読むと、治療経験が少ない方ばかりです。鍼灸治療経験者だからといって、日常的に鍼灸を選択して受療されている方は、このコメント回答者にはいないと思われま



ファミリーフェスタに参加したメンバー



鍼灸治療体験コーナー

| 設問② 現在、病気・症状など、健康上の問題がありますか？(複数回答可) |       |        |        |       |
|-------------------------------------|-------|--------|--------|-------|
| 症状                                  | 来場者全員 | 鍼灸経験あり | 鍼灸経験なし | 鍼灸経験？ |
| 頸・肩こり                               | 28    | 14     | 14     | 0     |
| 腰痛・坐骨神経痛                            | 10    | 5      | 5      | 0     |
| 肩関節痛                                | 8     | 3      | 4      | 1     |
| 頭痛                                  | 7     | 5      | 2      | 0     |
| 眼の疲れ                                | 5     | 2      | 3      | 0     |
| 高血圧症                                | 4     | 1      | 3      | 0     |
| 膝痛                                  | 3     | 0      | 3      | 0     |
| 上肢痛・シビレ                             | 3     | 2      | 0      | 1     |
| 手指痛・腱鞘炎                             | 3     | 1      | 2      | 0     |
| 冷え症                                 | 3     | 2      | 1      | 0     |
| 脂質異常症                               | 2     | 0      | 2      | 0     |
| 高血糖症                                | 1     | 0      | 1      | 0     |
| めまい                                 | 1     | 0      | 1      | 0     |
| 更年期障害                               | 1     | 0      | 1      | 0     |
| こむら返り                               | 1     | 0      | 1      | 0     |
| 風邪                                  | 1     | 0      | 1      | 0     |
| 疲れ                                  | 1     | 0      | 1      | 0     |
| 緊張しやすい                              | 1     | 0      | 1      | 0     |
| なし                                  | 11    | 1      | 10     | 0     |
| 無回答                                 | 3     | 2      | 1      | 0     |

### 【考察②】

フェスタ来場者がどんな疾患・症状を抱えているか？という質問です。分析・考察するには、アンケート回答者数が少ないためはっきりとしたことは言えません…。頸・肩こり、それに筋緊張性と思しき頭痛を含めるといわゆる「肩こり症」という方は2人に1人ということでしょうか…。そうだと仮定するのなら、次回フェスタでは『肩こり治療！即効性・有効性お試しください！』という売り文句を前面に出して来場者へアピールする手段もあります。とまあ、1回だけのアンケート集計結果では何ともいえない部分です。

もう一つ、注目すべきは「健康上の問題はなし」と回答した方の数字です。鍼灸治療経験者は22人中1人に対し、鍼灸治療未経験者は44人中10人が健康である！ここがポイントだと思います。というのは、鍼灸体験ブースを訪れる多くの方が健康上に問題がなく、興味本位で体験治療を受けているわけです。踏み込んで言うのなら、気になる自覚症状がない方が「あら、鍼をしても痛くない。灸も熱くなかった。」という理由だけで、将来的に鍼灸院へ足を運ぶことはありません。一般的な病院で受けられる治療と、私たち鍼灸師が提供する治療とでは何が違うのか？患者にとって何のメリットがあるのか？鍼灸ならではの独自性、有益な面、それを納得してもらわねば鍼灸を選択する動機づけにはなりません。このポイントは、今後の鍼灸普及活動においてとても重要です。工夫と時間を重ねて「いかに鍼灸のファンを作るか？」

という、鍼灸を一般の方へよりよく紹介・説明するトレーニングをしていくことが課題であると思います。

**設問③はり治療、きゅう治療、または鍼灸師にはどのようなイメージがありますか？**

**(複数回答可)**

|           |    |          |
|-----------|----|----------|
| 良いイメージ    | 22 | 件(コメント数) |
| 悪いイメージ    | 40 | 件        |
| どちらともいえない | 23 | 件        |

**《鍼灸治療経験ありグループのコメント》**

【よいイメージ・12】

効果がある(3人)／抵抗ない(2人)／良いイメージ／相性がよければ効きそう／化学物質を使わない体にいい治療／神経を刺激して血流を良くする／体が軽くなる／(灸)冷え症に効きそう／(体験後)気持ちがよい

【悪いイメージ・12】

痛そう(4人)／怖い(2人)／灸は熱そう(2人)／治療代が高い／回数がかかる／時間的に余裕がないとわかりづらい／何回で効果が出るのかわからない

【どちらともいえない・6】

韓国ドラマでの鍼治療シーンを思い出す／無回答(5人)

**《鍼灸治療経験なしグループのコメント》**

【良いイメージ・10】

(体験後)思ったより鍼が痛くなかった(2人)／体験中は怖い感じがして冷や汗をかいたが治療後は楽になった(2人)／効きそうな感じ／東洋医学に興味はある／薬剤を使用していないので信頼できる／興味はあるが、将来的には受療したい／手軽に治療を受けられる／肩こり・疲労回復に効きそう

【悪いイメージ・28】

(鍼)怖い(14人)／(鍼)痛い(8人)／(灸)熱そう(3人)／マッサージより敷居が高い(2人)／感染症リスクが怖い

【どちらともいえない・15】

特別な人が受けるもの／(灸)小学生の時やったことがある／高齢者が受ける治療／鍼灸で治るものは治る／(鍼灸師は)大変な仕事／無回答(10人)

**《鍼灸経験？グループ》**

【どちらともいえない・2】

無回答(2人)

### 【考察③】

私たち鍼灸師と一般の方の感覚は違います。イメージのギャップはいかほどか？それを問う質問です。「鍼灸治療・鍼灸師」は一般の方はどう思っているか…。

初めにがっかりするのは「鍼灸師」という職業に関するイメージのコメントが1件しかなかったことです。鍼灸師は何をするかよくわからない、そういった方が多いのではないのでしょうか？

次が大事なポイントです。鍼灸治療経験者 22 人の中から「鍼灸治療の悪いイメージ」が 12 件出されました。すなわち、鍼灸経験があるからといって、鍼灸に好意的でない方が相当数いるという予測です。治療代や回数などは、(治療を継続せずに)脱落する理由です。これは治療期間や金額に納得が不十分、満足できない方の意見でしょう。誠意ある対応、わたくし如きが言うまでもありませんが、患者に最大限の努力をすることが脱落防止策です。そして、鍼灸治療経験者でも「鍼灸は痛い、熱い、怖い」という悪いイメージが 8 件ありました。この方たちは残念ながら「痛かった、熱かった、怖かった。しかも治らなかった！」と、鍼灸に期待外れをしたのでしょう。病院での治療でなかなか好転しない症状、それを鍼灸でなら治せるのでは！と過剰な期待。しかし結果が伴わない。症状の好転には、時間と根気が必要なものがあるという「説明と同意」。それがなければ1回の治療で脱落してもおかしくありません。世の中には名人鍼灸師がいて「あそこの鍼の先生が一発で治してくれた！」そんな噂はあちこちにあります。しかし名人を目指すよりも、日々目の前にいる患者を誠心誠意対応していくことが、遠回りながら着実に名人に近づける実践だと思えます。

以上、アンケート集計に関して、わたくしの考察であります。数字や意見をどう読むかは、1回だけの集計結果ではわからないこともあります。次回も来場者アンケートを実施できればと思いますので、ご協力賜れば幸いです。



フェスタ鍼灸コーナーのようす

## 2. カルテ活用

この試みは大失敗でした。来場者の中で「鍼灸院で治療を受けたい！」という方のために、医療機関向けの紹介状に習い「鍼灸院向け紹介状」を用意しましたが…、結果は1枚も出番なしでした。前述した【考察②】の繰り返しですが「鍼が痛くない、灸が熱くない」という理由では、鍼灸の受療動機にならないということです。鍼灸ならではの良さを理解された方が鍼灸院へ足を運ぶわけです。体験治療 10 分程度では興味は引くが続かない。短い時間でも効率的に鍼灸への理解を深めることができるようになれば、このカルテは意味をもって来るでしょう。次回はどうか？これから再考していきます。

### 【まとめ①】

鍼灸の普及へ向けて、今後もこのファミリーフェスタに参加していきたいと思います。アンケート集計の分析から、次回への課題を次に挙げます。

- ① 一般の方へ鍼灸を紹介するトレーニング
- ② 福島県鍼灸師会(青年委員会・女子会)で鍼灸の良さを伝える方法を探るワークショップを行う

来場者の心に響くような鍼灸紹介法はないものか？個人的、団体的それぞれ知恵を絞っていければと思います。自戒の念を込めて手厳しく言うと、ドーゼ少な目体験治療を施して、パンフレット・治療院名簿・サンプル品を配っているだけでは何ら変化はない、将来的発展はないと思います。流れ作業をやるのではない。流れを作るような取り組みとしていきたいです。

### 【まとめ②】

会津医療センター漢方医学講座・三瀨忠道教授を中心に、大学病院施設において難病患者を鍼灸で治療する時代が来ました。現代医学では改善しない難病、それに苦しむ患者を救う手立てに鍼灸がなれば幸いです。

「難病が漢方・鍼灸で治る！」そういった研究がこれから花開き実を結べばハリ麻醉時後の鍼灸ブームがやってくるかもしれません。

ところで私たち鍼灸師、鍼灸臨床家の元へ訪れる患者さん。日頃診る症状はアンケートにもありましたが肩こりや腰痛が多いでしょう。そういった症状は鍼灸でなければ治らない！ではないです。患者さんにもよりますが、病院の薬や治療で十分よくなる場合が多いです。それでは、鍼灸でしか治せない病気や症状というのはありますか？難病、ストレスや疲労？いろいろ考えられます。病院の治療よりも鍼灸のほうが効くぞ！という声もあると思います。しかし、病院での治療で満足している患者にとっては、鍼灸に興味は向きません。現代医療よりも鍼灸の優位性を導いて生き残る、それは不可能だと思います。現代の医療システムに並行して、組み込まれていくことのほうに鍼灸の未来がある気がします。鍼灸と鍼灸師の認知度向上、受療率拡大、鍼灸という遺産が文化へ発展！それこそ100年後先の話でしょうが、千里の道も一歩から。今後とも皆様のご協力を賜りたく存じます。よろしくお願いいたします。

# 全国大会・学術大会参加記

箱岩 義郎

## ■ 第 47 回 東北鍼灸学会学術大会青森大会

毎年恒例の東北鍼灸学会学術大会が、今年には平成 25 年 9 月 15・16 日に亘って青森県三沢市にて開催されました。

本県からは、安齋前会長、中沢現会長はじめ 6 名の先生方が参加しました。

この東北鍼灸学会とは、東北 6 県の名鍼灸師会所属の先生で構成され、毎年持ち回りにて開催都市が選定されます。各県から選出された先生方の口演や各方面でご活躍の先生の講演を伺い、互いに鍼灸に対しての研鑽をはかり、また他県の鍼灸師の先生方との交流を深める貴重な場所でもあります。また、震災以降は、「東北から鍼灸を広めよう」とする新たな意義も加わり、さらに活発な活動を求められるものでもあります。

今年に入会 4 年目の私ですが発表する機会をいただきましたので、ざっくりとはありますがご報告したいと思います。

青森県三沢市は八戸市の北方、航空自衛隊の基地、米軍基地としては知っていましたが、特に知識もなく初めての街でした。今回は白河の三瓶先生にお車を出していただき相乗りで向かったわけですが、福島市より 363km 実に 6 時間の旅でした。あいにく台風も接近し雨の中の道中であつたので、ただただ「遠いなあ」が率直な印象です。

人口約 4 万人、人口統計に入っているのかは不明ですが、米軍基地所属の人が約 1 万人、人口比 20% を占めるといわれていて何ともアメリカンな街です。確かに英語表示

が町中あらゆるところにあります。

基地に依存した産業の街という感じがありますが、私 40 代後半より上の方には、高校野球で甲子園準優勝の太田幸治擁する三沢高校、歌手の小比類巻かほるなどの人物を輩出した底力ある街でもあります。(懐かしいなあ) あ、忘れてはいけない人物に寺山修司がいました。寺山修司記念館もあるそうなので、次回は必ず立ち寄ってみたいと思います。

9 月 15 日は航空自衛隊三沢基地の航空祭の開催日でもあり、結構な人が集まっておりました。あいにくの雨で、ブルーインパルス of 航空ショーは中止となったみたいです。



実技供覧の箱岩義郎

さて、大会テーマは「鍼灸の本質～鍼灸にかける思い～」で、特別講演 2 題、一般口演 6 題、実技供覧 6 題を行いました。私は一般口演と実技供覧にて「シンスプリントの一症例」というタイトルで発表しました。

発表すること自体が初めてでもあり、題を決め、構想を練り、抄録の作成、発表スライドの作成、夏季学術講習会でのリハーサルと頭を抱えながら、しかし先輩の先生方のご援助をいただき何とか無事に発表できたと思います。発表直後は「もうこんなの嫌だ」と思いましたが、しばらくすると「もっとこんな風に発表できたのではないか」などと反省し、もしまた機会をいただいたときには、さらにいいものにしたいという欲が出てきました。

他県の先生方の発表は、青森県が「肩関節の腱板炎」、岩手県が「潰瘍性大腸炎」、秋田県が「鍼灸による救急治療」、宮城県が「WHO経穴と鍼灸」、山形県が「肩峰下滑液包炎」とバラエティな、しかし興味深い発表が続きました。

特別講演は、地元三沢市で独立起業し多くの会社を持つ野坂篤司氏の「笑売人のひとりごと」と題して、サービス業の原点とは「他

人への思いやりと笑顔」という内容について講演されました。まさに「お・も・て・な・し」のことで、鍼灸院は医業という形のサービス業であることを再認識いたしました。

もう一題は、鍼灸師になってから北海道大学医学部大学院を卒業され、博士号を取得、現在札幌で鍼灸院を運営されている佐藤雅美氏の「現代医療と鍼灸・相互間における確定診断の重要性」でありました。先生は画像診断に基づく現代医療による確定診断の重要性を説き、そこから現代医療では対応できない諸症状の改善に鍼灸治療を推進しており、たくさんの臨床症例を発表していただきました。目からうろこでありました。自分の診断から治療までの流れの中で、何か忘れてはいないか、おなざりな所は無かったかを改めて考えさせられました。

充実した2日間の大会でしたが、帰りの道中は、台風の目に突っ込んでいくような南下であり、またまた「遠いなあ」とTwittしました。

## ■ 第9回日本鍼灸師会全国大会 岡山大会

こちらは第9回日本鍼灸師会全国大会の報告です。

今年は平成25年10月13・14日に亘って岡山県岡山市にて開催されました。今年は9月の東北鍼灸学会の発表と10月のこの全国大会の発表、2つの大きな発表をさせていただきました。大変ではありましたが、貴重な経験ができました。

安齋前会長、中沢現会長はじめ諸先輩の先生方に改めてお礼申し上げます。



岡山駅前の桃太郎像

大会テーマは「きぼう…未来へ！」～宇宙に向けた鍼灸～ となっています。

何だかよくわからないテーマだなと誰もが思われたに違いありません。しかし、大会会場エントランスに足を踏み入れた途端、疑問は氷解しました。

そこにはJAXAブースがあり、宇宙服の展示、試着できたのです。こんな唐突な設置ができる大会本部に乾杯(完敗)です。

大会は、岡山コンベンションセンターという岡山駅に直結する大変利便性の良い場所で行われました。そのセンター内の5つの会場で2日に亘って20講座が開かれました。

5会場にて同時進行で講演を開きますので、何を聞きたいかよく吟味しないと、ただうろろして終わってしまうことになります。私の担当は一般口演21題の中の1つでしたが、わが福島県の中沢会長は2講座にて講演されました。大変なご準備であっただろうと老婆心ながら思いました。

私のような坐骨神経の一症例の発表から、現代医学的な診察・治療や東洋医学的な鍼灸実技、鍼灸師法の制定についてのシンポジウム、若手鍼灸師のための経営講座など、講座内容のバラエティさも全国大会ならではの。詳しい内容については「医道の日本」誌や「日本鍼灸新報」にございますので、紙面の都合上ここでは控えさせていただきます。

岡山県岡山市に対する私の感情の2日間での移り変わりを書きます。

旅行(?)前、私にとっては未開の土地、桃太郎とお土産のきびだんごしか知らなかった。イメージは瀬戸内の田舎町でした。

初日13日、晴れ。岡山駅到着。人口72万人、まいったか政令指定都市だぜ!の勢い

に、人口28万人の福島男子は涙ぐむのでありました。

岡山は年間の晴天の日数が全国一、「はれの街」がご自慢だそうです。ハッピーそうで何よりです。桃も一番おいしいそうです。福島の桃が一番という宗教を信仰する私にとっては、あまり面白くない街と思いました。夜の懇親会でもお国自慢に、お腹も満腹になりました。(でもその後今泉先生と瀬戸内ラーメンを食べに行きました。)

2日目、晴れ。大会が終わり帰りの新幹線の時刻まで、何かこの地に足跡を残さなければとの義憤に燃え、自慢の岡山城と後樂園に向かいました。鶴ヶ城そして御薬園が好きな福島男子も「結構いいセンスしてんじゃん」、「今まで見た中で一番広い庭だなあ、何だかいい気分なんだなあ。」などとふと思った自分に狼狽えました。

隣にあまり目立ちはしませんが、「竹久夢二記念館」があり、急ぎ入館しました。実に夢二は、垢抜けしたヤツでありました。

そして岡山駅に戻り、構内に足を踏み入れようとしてふと振り返ると、青空の中でほんわか雲が手を振ってくれました。いつしか顔も綻んで、「年取ったら、こういうところで住むのも悪くないなあ」なんてTwittするのがあります。



大会看板の前で記念撮影

#### 【編集後記】

今回も無事に“広報ふくしんかい”を発行することができました。この場をおかりして、原稿依頼を快くお受けくださった先生方に心より謝意を表させていただきます。“広報ふくしんかい”と名称を改めて二回目の発行になりますが、この広報誌の目指すテーマ「県民のみなさまに鍼灸治療についての情報をわかりやすく発信していく誌面作り」にそえていないと感じています。このことを反省し、よりわかりやすく情報発信する広報誌をめざしたいと考えております。これは、会員のみなさまのご協力がなければ成せることではありません。鍼灸治療の普及発展のためにさらなるご協力のほどお願いいたします。(Y)

#### 【表紙写真について】

朝5時頃福島を出発して丁度朝日が当たった秋の磐梯山を、レークラインの途中で撮りました。手前は秋元湖で、空気が冷たく、湖面が暖かいので朝霧が発生して湖面が見えにくくなっています。

発行 : 一般社団法人福島県鍼灸師会  
発行日 : 平成26年1月31日  
発行者 : 中沢良平  
事務局 : 郡山市喜久田町字入ノ内6-37 TEL・FAX 024-961-2389  
編集責任者 : 山内隆一  
編集委員 : 今泉洋平・遠藤賢一・檜村由美子・柏原修一・佐藤今一・三瓶真一  
                  白井和弥・竹村裕・粒来和正・箱岩義郎・橋本修一・矢吹淳  
印刷 : (有)薄井印刷 郡山市笹川1-122 TEL 024-945-076